

松江市立鹿島歴史民俗資料館だより

No.42

2025年2月発行

■ 魯迅の手紙と写真 大阪大学総合学術博物館へ出品の反響

昨年は、中国の文豪 魯迅^{ろしん}が仙台医学専門学校在学していた時の恩人である藤野厳九郎の生誕150年であり、各地で記念の展覧会が開かれています。

春の大阪大学総合学術博物館の展覧会(右)に当館から魯迅の手紙と写真を出品しました。手紙は、鹿島町出身の増田渉が翻訳する岩波文庫『魯迅選集』に入れたい作品はあるかと問うた手紙の返事です。その中で魯迅は、全て任せるが恩師藤野先生との思い出を書いた「藤野先生」だけは入れてほしいと書いています。

ミュージアムレクチャー「魯迅と増田渉－医師にならなかった二人－」では当館の館長赤澤が講師を務めました。これを聴講した大阪大学への中国の留学生から展覧会と講演会の内容で記事を書きたいとのことで、当館から写真7枚を提供しました。左は中国紙『北京晩報』に掲載の記事です。また、中国では魯迅と藤野の出会いから120年にあたり記念切手が

発行され、額面も1.20元となっています。

展覧会は藤野^{ふじのげんくろう}厳九郎の出身地でも企画されました。夏には福井県の教育博物館(中央)、現在は3月末まであわら市郷土歴史資料館(右下)で開催中です。当館からは魯迅の手紙と写真の現品ではなく、写真データを提供しました。



■ 図録販売中です

2024年度特別展「海と湖に生きた人々」の図録を販売中です。

副題に、有形登録民俗文化財「島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具」とある通り、松江市内で明治から昭和にかけて使用された漁撈用具と漁業を営んだ人々の暮らしを紹介しています。

資料館窓口で、1冊1000円でお買い求めいただけます。郵送もいたしますので、資料館にお問い合わせください。

